



## 期せずして人望力・<sup>かんよう</sup>涵養道場

### 長門 正貢

シティバンク銀行  
 取締役会長

三冊の本を思い出していた。まず、福澤諭吉『学問のすすめ』。十七編「人望論」で言っている。世上一般から望みをかけられ他人から当てにされる人間にならねばいけない。そのために①伝達手段たる言葉を流ちょう・活発にし弁舌力を磨く、②顔色・容貌を活発愉快にして人に厭われない、③人を毛嫌いせず一色に偏せずさまざまな人と交わる、ことが肝要だと。二冊目、吉田兼好『徒然草』。百十七段で曰く「よき友、三つあり。一つには、物くるる友。二つには医師(くすし)。三つには、知恵ある友」。知恵ある友人になりたいですね。三冊目は、1980年代米国No. 1 ベストセラー、クライスラー再建直後の自著『アイアコッカ』。彼曰く、仮に学生時代に戻るなら、断然、弁論部に入る、と。人を動かす、人を説得するのは言葉であり、これを大いに鍛えたい、と。

これらのための格好の道場が経済同友会だと感じている。世界各地の外国人も含めさまざまな人との交流、会内外の人たちとの議論の場が多く用意されている。討議・調査の成果を世に発信する機会もある……。自身の考えを簡潔明解に発表・発言する、さまざまな角度から率直に議論する、いろいろな方々に接しさまざまな知恵を聞き学ぶ……。いつも手を上げてウダウダと長い論旨不明の主張をしている会員もたまにはいて、大変<sup>せんえつ</sup>僣越ながら、自戒のための悪いモデルまで用意されており……。本当に経済同友会は勉強になる。

ただ、経済同友会には既に功なり名を遂げた免許皆伝の方が多い。将来を担う若人こそ、三人の大家・才人が薦める業(わざ)を習得すべきだろう。そもそも経済同友会は当初から、他経済団体に比し、新進気鋭の若手経営者の集まりでもあったわけで、今一度、一工夫しても良いのかもしれない。かくも貴重な体験をこれからの若人に与えるべく、課長クラスのジュニア会員コースを加えるとか……。ちょっと考えてみませんか？